

O2-025

「救急外来における災害に備える1歩」
～災害対策のシステム構築と教育に
ついて～鈴木麻友子、竹内 茉莉、杉本 尚味、杉原 功恵、
伊藤 友弥

あいち小児保健医療総合センター

A病院は、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ巨大地震に備えた、災害対策の強化が急務とされる地域にある。また、A病院の小児救命救急センターは、小児重症患者の集約化拠点病院としての役割機能を担い、災害発生時は小児の受け入れ対応が求められている。地域の小児を守るため、災害発生時に救急外来(以下ERとする)の役割機能を果たすことを目的としたシステム構築と知識、実践力向上のため教育を行った。本研究は院内の倫理委員会の承認を得た。＜BR＞が求められる。平時は電子カルテから患者情報を集約するが、災害時に全体を把握する手段が確立していなかった。対策としてスタッフステーションのホワイトボードをベッドマップ化し、在院患者がマップ上で視認できる形にした。トリアージ表の掲示により病状を含めた個人情報の把握に加え、作成したデバイス表示ツールの活用により避難を見据えた患者状態の把握を可能にした。システム導入後、スタッフから「情報把握しやすくなった」「停電時でも対応できそう」等の肯定的意見が聞かれた。＜BR＞A病院には、災害マニュアルやアクションカードなどの院内共通のツールはあるが、十分に理解し的確に行動できるスタッフは少ない現状があった。まず、知識面に対しアクションカードの内容の再周知と災害トリアージの勉強会を行った。次いで、アクションカードを使用し、実践に近い状況設定を基に避難を想定した机上訓練を行った。また、患者の重症度や緊急度、病態が多様であるERの特殊性を鑑み、訓練は医師を含めて行い、より安全でより迅速な対応ができることを意識した。訓練を重ねる中でアクションカードに修正を加え、災害発生直後から避難までの行動を優先度や動線などを考慮し、効率よく初動対応ができるようにした。＜BR＞今回取り組んだシステム構築と教育により、災害対応の強化に繋がったと考える。今後はさらにシステムを充実させ、習慣化を目指したい。また、トリアージ実施前の患者対応方法など未解決の課題に早急に取り組む予定である。さらに、平時から災害の備えや災害時に起こりうる健康障害を予防するためのホームケア指導など、患者家族に向けた災害対策活動も積極的に行っていきたい。

O2-026

医療的ケア児の自助・共助に資する
スマホアプリと安否確認や
SOS受信が可能なウェブアプリの評価中井 寿雄¹、中井 有里¹、松本祐佳里²¹高知県立大学 看護学部²福岡大学医学部 看護学科

【目的】

K-DiPS Solo(KDS)(ケーディップスソロ)の情報をPDF変換し個別避難計画として活用できる機能、K-DiPS BCP(KDB)の、安否確認や医療的ケア児(医ケア児)からのSOS受信が可能なアプリの課題と改善点を明らかにする。

【方法】

KDSとは、医ケア児らが、持病や自身の医療情報を入力しておくことで、自助・共助に寄与する健康情報アプリである。KDBとは、KDSの本人情報、支援者情報、自由記載を、クラウドを介して共有することで、BCP策定支援、安否確認、SOS受信が可能なウェブアプリである。実証試験はiOS端末5台を用いた。(1)PDF変換機能：①KDSに情報入力、②PDF変換、(2)安否確認機能：①KDSをKDBクラウドに接続、②安否確認リスト作成、③安否確認送信、⑤KDSで受信し応答、(3)SOS機能：①KDSからSOS情報送信、②KDBで受信し居住地把握の3機能を評価した。

【倫理的配慮】

本研究は、模擬データを用いた実証であり、個人情報は一切使用していない。

【結果】

(1)PDF変換機能：変換ファイルの保存や送信は、メールやAirDrop、メッセージを用いると容易だった。(2)安否確認機能：安否確認メッセージのKDS側への通知が、1回のポップアップ表示のみで、iOSの設定や他のアプリを操作中に受信した場合は、ポップアップ表示されないケースがあった。安否確認中のKDB側の改善点として、対象者情報の把握、安否確認の解除を個々にできない点が挙げられた。(3)SOS送受信機能：KDSからのSOS受信時に、地図上への居住地表示が可能であるが、プライバシー保護の理由からKDSのGPS情報は参照できない仕様である。したがって、送信時の居場所とのミスマッチが発生する可能性がある。

【考察】

PDF変換は個別避難計画、停電を考慮した紙媒体のバックアップとして有効である。一方で、KDSの情報を最新に保つための運用方法の確立が必要である。KDBの安否確認機能について、緊急時使用を想定すると、KDSへの通知は強調と繰り返し表示が必要である。KDB側の安否確認時のユーザビリティも改善が必要である。医ケア児のSOS送受信は、受信者の認知の遅れや見落とし防止等、運用上の取り決めが必要である。SOS発信時に医ケア児側から居場所を発信できる機能の実装が望まれる。